



# アンジェリカ川柳祭り

---

★ 題 「秘密基地」

---

2024/10/16～11/15  
川柳アンジェリカ

投句者（到着順）

Xより

片羽雲雀

鈴木雀

飛和

温水ふみ

男里翔舞

ちやいろ

ダラダラわんはんどれっふ(\$\$100)

かなぴょう@カナオキ

ツイッター川柳部大喜利川柳

再度頑固一徹

はぐれ塾講師ヒナタ

月波与生

小葉味

西沢葉火

かれん

蔭一郎

宮下ぼしゅん

銀屋林太郎商店

牛田悠貴

緒莉莉莉

山田真佐明

ちゅけ彩緒

十猪

石川聡

一橋悠実

胡椒黒

海老珊瑚

投句者（到着順）

投句フォームより

青砥たかこ  
柳本恵子  
齊尾くニコ  
もくめ  
田村ひろ子  
旅男  
行形亭炎上  
ヒロユキ  
米山明日歌  
八上桐子  
平山晃幹  
田中陽真  
橋本大輔  
松原葵空  
グエンゴックバオチャン  
グエンニヤツミン  
松隈悠真  
森山美琴  
田中湊斗  
今泉俊亮  
安藤舜  
山本文江  
永戸文恵  
山口擴行  
中島あんこう  
北村克郎  
江口賢介

馬渡静子  
田中吉己  
江川寿美枝  
森文代  
横尾信雄  
平原忠義  
小池喜治  
平川富美子  
中島俊子  
城野くみ子  
大塚則子  
徳淵康子  
原加代子  
真島美智子  
真島涼  
真島芽  
三好光明  
間瀬田紋章  
峯島妙  
成瀬悠  
上野空  
妹尾凜  
須藤しんのすけ  
かすみ草  
近藤ゆかり  
浪越靖政  
西山奈津実

投句者（到着順）

投句フォームより

天村啓月  
宮井いずみ  
しろとも  
ささきのりこ  
なかはられいこ  
真島久美子  
大月陽星  
青砥和子  
澤井長利  
八木五十八  
クイスケ  
小沢史  
楡原級  
真理猫子  
S i n  
小原由佳  
猫田千恵子  
藤田めぐみ  
伊藤良彦  
河野潤々  
塩の司厨長  
笹田隆志  
笹田かなえ  
澤野優美子  
森茂俊  
菊池京

合計一〇七名  
（二二一句）



# 「秘密基地」

## 旅男選

### 佳作

裏庭へ招いた唯一の男

屋上の赤いランプにあたたまる

ママの留守ママの部屋には魔女が住む

あこがれは夜行列車の車掌室

秘密にも基地にもならず崩る砂

胸奥に増築中の秘密基地

書き綴るノートの奥に大銀河

蓋開ける前のオルゴールの空気

隠れ家のみたらし団子の串の数

パスワード忘れ入れぬ秘密基地

シュレツダは秘密<sub>三三</sub>文書の<sub>三三</sub>基地なのだ

古書店の混沌秘密基地のよう

あの小屋もあの約束も朽ちて夏

鮎釣りは暗号ラジオの後にして

はぜ掛けは壁空は天井我が要塞

ジオラマにねじ込まれたら秘密基地

詩のなかで薔薇に埋もれる秘密基地

宝物 隠した日々が 宝物

ケンちゃんがクワガタくれた秘密基地

世界地図逆さに貼ってハイタッチ

バラしたい思いが疼く秘密基地

まぬかれてひとり手をふる夢の人

秘密の扉きちんと閉じる鼻孔

夫婦別姓そこから先の秘密基地

ラムネ瓶のビー玉秘密基地の私

胡椒 黒

八上 桐子

平川 富美子

伊藤 良彦

一橋 悠実

近藤 ゆかり

小原 由佳

小沢 史

天村 啓月

青砥 たかこ

石川 聡

天村 啓月

男里 翔舞

山田 真佐明

男里 翔舞

鈴木 翔雀

緒 莉莉莉

はぐれ塾講師ヒナタ

峯島 妙

宮下 ぼしゅん

三好 光明

クイス ケ

妹尾 凜

菊池 京

笹田 かなえ

秘密基地 花冠は置いてゆけ  
18の私に宛てた供花（くげ）がある  
家を出て人の秘密に間借りする  
句を編んで月の灯りとおでん鍋  
秘密基地ここで食べるとおいしいね

片羽 雲雀  
しろとも  
銀屋林太郎商店  
原 加代子  
松隈 悠真

## 五客

あふれるのは命がみちてくるからね  
秘密基地に行くって駅の伝言版  
絶交の原因になる秘密基地  
秘密基地ゆえに正義を持って余す  
この出汁は秘密基地からしかでない

西山 奈津実  
柳本 恵子  
一橋 悠実  
澤井 長利  
石川 聡

## 人位

秘密でも基地でもなくなったあなた

藤田 めぐみ

## 地位

駆け落ちて こんなに小さかった基地

S i n

## 天位

雪降れば昼の月めく秘密基地

緒 莉莉莉

# 旅男 選後評

## 【人位】

秘密でも基地でもなくなったあなた

あなたも私もみんなですね。あなたのことが知りたいたいと思ったときめき感は無くなってしまいました。でもそれから、別の深刻な秘密が加わっているんですね、大概。ボケて漏らしてしまうのを心配しているのです、実は。

地の句があってこの句に続く人生感、人間模様。

## 【地位】

駆け落ちて こんなに小さかった基地

夢見た生活を秘密基地にしたのが良かった。四畳半一間で始めた暮らしを思い出しました。実家も親も自分も小さかった。さてさて今度は、最後の闇の秘密の基地に昇る番です。

## 【天位】

雪降れば昼の月めく秘密基地

「昼の月めく」の表現が素晴らしい。なんとなく、空々しい感じがピッタリきました。雨より雪の方が不思議、過ぎ去る、遠い日、振り向く感が有ります。秘密基地というちょっと子供っぽい言葉を大人にしました。



# 「秘密基地」 藤田めぐみ選

佳作

Stand by Me あれから誰も笑わない  
 おへそとか秘密基地とか鯛でんぶ  
 ラムネ瓶のビー玉秘密基地の私  
 北窓におじぎ草を置くのが合図  
 世界地図逆さに貼ってハイタッチ  
 我が家とは違う星へと飛ぶ子ブタ  
 シェルターにMONO消しゴムの忘れ物  
 アドリブで私を逃がす秘密基地  
 家を出て人の秘密に間借りする  
 秘密基地塗り広げた食パンの上  
 見られたい秘密の部屋の障壁画  
 雪降れば昼の月めく秘密基地  
 風聞かぬ机の下が秘密基地  
 別々に伸ばした枝で焚き火する  
 先生の爪には秋の秘密基地  
 鮎釣りは暗号ラジオの後にして  
 来週はライオンでゆく秘密基地  
 あふれるのは命がみちてくるからね  
 秘密基地まで門がまえひとつまで  
 ひろげれば蝶に畳めば蝉時雨  
 ちくわの暗示性サンルーム  
 ジオラマにねじ込まれたら秘密基地  
 パッチワーク棄てた男の配置換え  
 夫婦別姓そこから先の秘密基地  
 まぬかれてひとり手をふる夢の人

月波 与生  
 なかはら いこ  
 笹田 かなえ  
 温水 ふみ  
 宮下 ぼしゅん  
 森 茂俊  
 真島 久美子  
 米山 明日歌  
 銀屋林 太郎商店  
 榆原 級  
 北村 克郎  
 緒 莉莉莉  
 成瀬 悠  
 胡椒 黒  
 安藤 舜  
 山田 真佐明  
 小原 由佳  
 西山 奈津実  
 妹尾 凜  
 米山 明日歌  
 大月 陽星  
 鈴木 雀  
 澤野 優美子  
 菊池 京  
 クイ スケ



ブルーベリーに染まった舌が秘密基地  
糠床で腐り切るまで眠る癖  
干し柿のカーテン開けてはなりません  
秘密基地 花冠は置いてゆけ  
ひみつきちしあわせなことできるとこ

小沢 史  
八木 五十八  
城野 くみ子  
片羽 雲雀  
グエンゴックバオチャン

## 五客

合いことば落として帰れないツバメ  
この出汁は秘密基地からしかでない  
宿として機能はしない星の先  
駆け落ちて こんなに小さかった基地  
こちよこちよで産毛が抜ける秘密基地

西沢 葉火  
石川 聡  
ちゆけ 彩緒  
Sin 旅男

## 人位

蓋開ける前のオルゴールの空気

小沢 史

## 地位

浮草のひと葉へテント張っている

斉尾 くにこ

## 天位

大人になりすぎて 秘密基地洗う

Sin

# 藤田めぐみ 選後評

## 【人位】

蓋開ける前のオルゴールの空気

音楽が始まる直前の静謐な瞬間を切り取り、ノスタルジーとミステリーが漂う一句です。音を待つ緊張感は、まるで秘密の扉を開けるときのときめきを思わせませす。音そのものではなく「空気」に焦点を当てた視点が新鮮で、蓋を開ける前の沈黙が持つ重みと期待感が句の魅力を深めています。読者に「秘密基地」の扉を開けるような体験をさせる、詩情豊かな作品です。

## 【地位】

浮草のひと葉へテント張っている

寄る辺ない存在感とひそやかな世界観が印象的。不安定な浮草に小さなテントを張る光景には、浮遊感と儚さが漂いながらも、そこに確かな存在感を感じさせます。流れゆくものの上に作られた抛り所は、「自分だけのもの」を守ろうとする意思の象徴のよう。浮草とテントという軽やかなイメージの中に、静謐さと存在の確かさが共存し、「秘密基地」のお題への内向的で斬新なアプローチが光ります。

## 【天位】

大人になりすぎて 秘密基地洗う

大人になったからこそ抱く喪失感を、そこはかかないユーモアで包み込んだ作品。秘密基地という子ども時代の象徴を「洗う」という行為で描き出し、やり直したいけれどやり直せない切なさや、軽やかに表現しています。

「洗う」という動作には、かつての記憶を清め、大切にしたいという思いがにじみ出ます。懐かしさと儚さを感じさせつつ、現実を知る大人だからこそ生まれる視点が、句に深みを与えています。

ノスタルジーと現実の狭間に立つ大人の姿を、素敵に描いた一句。お題「秘密基地」の魅力を存分に引き出しています。



# 「秘密基地」 河野潤々選

## 佳作

渋沢を鼠小僧の被りに包む	澤野優美子
二段ベッドに期限の切れたレモンガム	かれん
この出汁は秘密基地からしかでない	石川聡
ひとりごとのひかりにまみれて鍵になる	温水ふみ
先生の爪には秋の秘密基地	安藤舜
チェロケースにラムネと空色の手紙	かすみ草
家を出て人の秘密に間借りする	銀屋林太郎商店
ラムネ瓶のビー玉秘密基地の私	笹田かなえ
詩のなかで薔薇に埋もれる秘密基地	緒莉莉
藤棚の影に少女のわたしたち	飛和
シエルターにMONONO消しゴムの忘れ物	真島久美子
合いことば落として帰れないツバメ	西沢葉火
書き綴るノートの奥に大銀河	小原由佳
秘密の扉きちんと閉じる鼻孔	妹尾凜
ひろげれば蝶に畳めば蝉時雨	米山明日歌
三味の撥駆け込み寺の封を切る	ささきのりこ
はぜ掛けは壁空は天井我が要塞	男里翔舞
壺の中ふいにまわるよ小宇宙	田村ひろ子
こっぽりと霧に包まれコルシカ島	斉尾くにこ
本棚の二段目ポラリスの埠頭	宮井いずみ
雪降れば昼の月めく秘密基地	緒莉莉
よく弾む鈴へ打ち込む五寸釘	八木五十八
5番線ホームベンチにみじかい死	八上桐子
片足のマリオネットの秘密基地	青砥和子
パッチワーク棄てた男の配置換え	澤野優美子

抜けた屋根触れない近さ鳥影の  
大人になりすぎて 秘密基地洗う  
シュレツダは秘密文書の基地なのだ  
角材の赤葉も枯れて埋めたこと  
墓石にはMary Jane入口は秘密

山田 真佐明  
Sin  
石川 聡  
牛田 悠貴  
須藤しんのすけ

## 五客

秘密にも基地にもならず崩る砂  
スナフキンならきつと星のや京都どす  
おへそとか秘密基地とか鯛でんぶ  
Stand by Meあれから誰も笑わない  
18の私に宛てた供花（くげ）がある

一橋 悠実  
藤田 めぐみ  
なかはられいこ  
月波 与生  
しろとも

## 人位

自分が自分に自分で自分を秘密基地

なかはられいこ

## 地位

蓋開ける前のオルゴールの空気

小沢 史

## 天位

浮草のひと葉へテント張っている

斉尾 くにこ

## 河野潤々 選後評

### 【人位】

自分が自分に自分で自分を秘密基地

自分が自分らしくいられるために、外界から我が身を守る、あるいは引き籠るための手段として、自らを秘密基地にしようというのだろうか。

生きづらい現代社会を健気に生き抜くために、人や社会との関わり合いの中で、TPOに合わせ、誰に気づかれることなく秘密基地になるなんてサイコー。

気持ちの持ち方次第ですぐに変身できちゃいそうで、気分が軽くなるようです。

### 【地位】

蓋開ける前のオルゴールの空気

「秘密基地とは秘密基地とは」に続けて、この作品を口ずさむと、川柳が前句付けから問答形式で発展してきたことを再認識させられます。

かつて秘密基地を作って遊んだことを思い返す直前のノスタルジックな空気感が、まさしく「蓋を開ける前のオルゴール」のようで、郷愁感のただよう懐かしくてやわらかな音色が、今まさに奏でられようとしている。そんなつかの間の空気感を掬いあげたところに強く惹かれます。

### 【天位】

浮草のひと葉へテント張っている

「秘密基地」を持つとする行為そのものが、常に危うさと表裏一体であることを強く意識させられる一方、しかし、だからこそそれを求めずにはいられない、ひととしての「本能」のようなものを感じます。

どんなに危うくとも、自分が自分でいられるための場所を求め続けること、それが得られた先に、本当の「社会性」が身につくのかもしれない。

そんなことを思わずにはいられませんでした。

# 「秘密基地」 笹田かなえ選

## 佳作

ケンちゃんがクワガタくれた秘密基地  
ママの留守ママの部屋には魔女が住む  
ひみつきちしあわせなことできるここ  
ブルックリンかシアター風か秘密基地  
あの小屋もあの約束も朽ちて夏  
猫の尾に誘われ月の集会所  
アドリブで私を逃がす秘密基地  
お買い得産地直送秘密基地  
大人になりすぎて 秘密基地洗う  
ここはダメばあさんのイス決まってる  
ひろげれば蝶に畳めば蝉時雨  
青春の終着駅がある部室  
北窓におじぎ草を置くのが合図  
遊星が落ちた八月ひみつきち  
前略 我々は既にアキアカネ  
こっぴりと霧に包まれコルシカ島  
冷蔵庫の奥に越後の吟醸酒  
クスノキの下に入口あったはず  
出棺後誰か出てくる秘密基地  
ひみつきち一か月後に壊される  
Stand by Me あれから誰も笑わない  
蓋開ける前のオルゴールの空気が  
秘密でも基地でもなくなったあなた  
おへそとか秘密基地とか鯛でんぶ  
ふらふらとアリスになって紀伊国屋

峯島 妙  
平川 富美子  
グエンゴックバオチヤン  
間瀬田 紋章  
男里 翔舞  
猫田 千恵子  
米山 明日歌  
猫田 千恵子  
Sin  
山本文江  
米山 明日歌  
伊藤 良彦  
温水 ふみ  
海老 珊瑚  
上野 空  
斉尾 くにこ  
横尾 信雄  
森山 美琴  
上野 空  
松原 葵空  
月波 与生  
小沢 史  
藤田 めぐみ  
なかはら いこ  
峯島 妙

本棚の二段目ポラリスの埠頭  
楠木の上に眠っている日記  
ひみつきち虫のすみかにあっおかし  
百年の孤独の先に秘密基地  
世界地図逆さに貼ってハイタッチ

宮井 はずみ  
真島 涼  
平山 晃幹  
笹田 隆志  
宮下 ぼしゅん

## 五客

秘密基地 花冠は置いてゆけ  
こちよこちよで産毛が抜ける秘密基地  
干し柿のカーテン開けてはなりません  
引き出しに残ったドラえもんの青  
シュレッダは秘密の文書の基地なのだ

片羽 雲雀  
旅男  
城野 くみ子  
月波 与生  
石川 聡

## 人位

未完成のままアルバムに光る

真島 芽

## 地位

この出汁は秘密基地からしかでない

石川 聡

## 天位

来週はライオンでゆく秘密基地

小原 由佳



# 笹田かなえ 選後評

## 【人位】

未完成のままでもアルバムに光る

題の「秘密基地」の言葉は入っていませんが、秘密基地がイメージできます。子供の頃の秘密めいた楽しかった場所のことは、大人になるとあやふやな記憶となっていたりしますが、だからこそその「秘密基地」なのです。「アルバムに光る」のフレーズが、その記憶が宝物のようにとても大切だということを表していると思いました。

## 【地位】

この出汁は秘密基地からしかでない

「出汁」に降参。「秘密基地からしかでない」とはどんな味の出汁なんだと読者に想像させるパワーがあります。いわゆる、大人の隠れ家的な美味しいお店の味とは一線を画し、次元を超えての味なのです。

その出汁に舌つづみを打つか、眉をひそめるかは読者任せという、巧みな書き方に唸りました。

## 【天位】

来週はライオンでゆく秘密基地

真っ先に思い浮かんだのは、もののけ姫のサンです。サンは山犬の兄弟と野山を駆け巡っていました。令和のサンはライオンでゆくのです。

秘密基地だからといってこそそそゆく必要はありません。

「ライオンでゆく」の勇ましさと明るさがなんとも好ましく、秘密基地の楽しさを物語ってくれました。



この度は「アンジェリカ川柳祭り」にご投句いただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

今回のテーマ「秘密基地」には、多彩な視点と個性豊かな作品が寄せられました。投句者の皆さんの心の中にある「秘密基地」を覗かせていただいたようで、私たち選者も温かい気持ちになりました。

また、川柳アンジェリカラジオ (Podcast)「オフビートなら川柳で」では、披講配信をお届けしております。作品の魅力を声で楽しむ特別な機会ですので、この結果報と一緒に、ぜひそちらも合わせてお楽しみください。

今後も川柳アンジェリカは、皆さまと共に川柳を楽しむ場を広げてまいります。次回の大会やイベントでまたお会いできることを心より楽しみにしております。

引き続き、川柳アンジェリカをどうぞよろしくお願いいたします。

川柳アンジェリカ代表

笹田かなえ

## アンジェリカ川柳祭り

### 入選作品集

発行日 二〇二四年 十二月八日

川柳アンジェリカ事務局